♥ ことばの力 ♥ からだの力 ♥ こころの力

園 長 室 だ よ り

城南学園幼稚園　園長　太田友子　令和５年 12 月1日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園

「育つ」幼稚園をめざして
今年を振り返ってみましょう･･･

早いもので師走を迎えました。
コロナ感染に伴う規制が緩和され、運動会や作品展、参観など、多くの方々にご来園いただけるようになりました。お子さんの成長を、ご家族とともにおじいちゃんおばあちゃんにも見ていただける光景が見られるようになり、「当たり前」の有難さを実感しました。

♥ 作品展「みんなで作ろう！」 ♥

今年もやってきました！「みんなでつくろう」製作。保護者会役員の皆さま、ご準備をありがとうございました。最後に毎年恒例の記念撮影。精一杯腕を伸ばして踏ん張っていただている東上会長様と北之馬副会長様を後ろ？に、ワイワイ、ゲラゲラ、教職員も一緒になって「ハイ、ポーズ！」。私たち大人のこんな姿を見て一番喜ぶのは、子どもたちですね！　おつかれ生です！ありがとうございました。

♥ 「参加して良かったです。」♥

「正直参加しようか悩みましたが、実際参加して良かったです。

子どものことを真剣に話される皆さんの姿を見て、どこの家族も同じように子どものことを愛しているんだと思い、**人の話を聞いていても嬉しい気持ちになれました。**また、機会があれば是非参加したいと思います。本日はありがとうございました。」

これは、11 月誕生会後に開催した「ちょこっとサロン」参加のお父さんからのメッセージです。

「人の話を聞いていても、嬉しい気持ちになれました。」 当日参加された皆さんで創りあげた「サロン」の雰囲気です。こんな風に、「皆さんいっしょなんだ」と気づき、元気になれるきっかけになれば嬉しいです。

私も「そうなんだ」「そうそう」とほっこりできる時間になりました。皆さん、ありがとうございました。

私たち大人は無意識のうちに
何を教えているでしょうか･･･

今夏、運転免許更新に出かけました。そこでの講話の中に、幼稚園の仕事にも非常に通じる内容がありましたのでご紹介します。

まず、信号機のない横断歩道での車の停車率についてです。JAF の調査によると長野県は信号機のない横断歩道を含め、一時停止率が過去最高を更新しているそうです。しかも長野県の 1 位は 5 年連続です。ちなみに一時停止率の全国平均が 10%未満であり、JAF は長野県の再調査を行ったということです。

このことを受けて長野県警がその理由を調べたところ、子どものころからの体験が影響していることが分かったそうです。具体的にお話しますと、例えば子どもを同乗させて運転中の保護者の多くは信号機のない横断歩道で子どもが手をあげていた場合一旦停止するそうです。そして同乗の子どもには「横断歩道では手をあげる」「車が完全に停止してから左右確認して渡る」こと等を話して聞かせるらしいのです。自分の親や祖父母、あるいは兄弟姉妹が一旦停止する姿を幼いころから目にするために、子どもたちはそれが当たり前の行動として認知されていくというのです。また、横断歩道で車が止まってくれたという嬉しい体験をした子どもは、自分も大人になったらそうしようという気持ちが高まるというのです。このような作用を【返報性の原理（返報性の法則）】とよびます。人間の多くは他人から親切にしてもらった場合、「自分もお返しをしたい」と思う心理状態のことです。

本園でも交通安全に関する取り組みはしていますが、子どもへの注意喚起だけでなく、大人の日常的な姿（習慣）も子どものこころに大きく影響しているということを忘れてはならないようです。そして、交通安全意識の高まりにとどまらず、子どもたちの望ましい習慣の育成にも大きなヒントになる事例だと感じました。「もう言うたでしょ！」と叱る姿を見ますが、「子どもは言う通りに育たない。親のする（行う）通りに育つ」と言われるゆえんです。

小学生ともなると、「うちのお母さんは信号無視して横断歩道を渡ってるで！」と厳しい指摘をします。子どもの命が一番のはずですが、親の姿で危険な行為を教えている、珍しくない話です。遠回りしてでも安全な道を一緒に選択する行為が大切な我が子の命を守る近道であることを今一度、確認したいと思います。「いのちが一番」です。

4 月から「アップデート」と「親切」をキーワードに掲げ、教職員とともに、「育つ幼稚園」をめざしてまいりました。

学校教育の評価として、保護者対象の教育アンケートを実施いたします。

ご協力のほどよろしくお願いいたします。